

時間	学習内容	学習活動 (子どもの動き)	●留意点、展開の応用など ○資料・備品など
10分	<p>○ここまでの復習                      大気汚染は地域の環境を悪化させ、単に健康被害ではなく、人々の生活をおびやかした。</p> <p>【主な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青い空が見えなくなり、病気になる人が出たにもかかわらず、公害が止まらなかったのはなぜだろう？</li> <li>・私たちの暮らしと工場や車はどんな関係だろうか。公害を解決するために工場や車を全部なくすことはできるだろうか？</li> </ul>	<p>○ここまで学んだことを踏まえて、なぜ公害をすぐに止めることができなかったのか、話し合う。</p>	<p>●単純に工場などを悪者と捉えるのではなく、その時代の社会全体の問題として問いかける。戦後復興をめざした高度経済成長期は、ともすると一人ひとりの人間より、経済成長が優先された。その頃、尼崎、西淀川、此花は一大重化学工業地帯へと発展していった。全国に高速道路網が張り巡らされ、鉄道の貨物輸送からトラックなどの輸送に移行した。</p>
10分	<p>○公害の解決に向けて、どのような努力が行われたか、資料「立ち上がる人びと」を読んで学ぶ。</p> <p>【主な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公害の解決のために、最初に行動したのは誰でしたか。</li> <li>・住民がもし立ち上がらなかつたら、公害はどうなっていただろう。</li> </ul>		<p>●公害の解決には、様々な立場の人が行動する必要がある。</p> <p>●工場からの汚染は改善したが、自動車の排気ガスによる汚染が悪化した。</p> <p>●一度起きた公害の解決は難しい。</p>
10分	<p>○資料「西淀川公害裁判」を読んで話し合う。</p> <p>【主な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今も具体的な対策について意見交換が行われているのはなぜだろうか。</li> </ul>		<p>●市民が公害問題に関心を持続けることで、対策がとられ、環境が守られる。</p>
10分	<p>○現在、行われている流入車規制、環境ロードプライシングなどの対策について資料「大気汚染を減らすために—現在の対策」を読んで学ぶ。</p>		<p>●電車やバスは車に比べて二酸化炭素の排出量が少なくすみ、環境にやさしい。</p>
5分	<p>○現在の大気汚染を改善するにはどうしたらいいか、ふたたび公害を起こさないためにはどうしたらいいか、考えをまとめる。</p>	<p>○作文に書く。</p>	